

て組み替えた臨時的な成果であるとの認識を持っている。経済変動等による財源不足、災害対策および市債の償還等、必要と認められる経費に充てることにより市財政の調整を図り、健全な運営に資するため設置される財政調整基金を多額に確保したことは、今後の健全な行財政運営にとって明るい材料と言える。

令和3年度は第六次白石市総合計画の初年度であり、計画に掲げた6つの分野目標、4つの重点戦略を着実に実施することともに、「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」に基づき、(仮称)白石中央スマートインターチェンジに係る各種調査の実施や(仮称)白石中央スマートインターチェンジ周辺整備基本計画の策定、整備に向けた準備など、本市発展の起爆剤と位置づけられる施策を積極的に推進したことは大いに評価する。

また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した、円滑なワクチン接

種の実現、地域経済の回復を目的とした割増商品券事業、宿泊事業者支援事業など、「市民生活への支援」「雇用の維持と事業の継続」「感染拡大防止」を柱とした独自の支援策への取り組みは、限られた予算の中で、効率的・効果的に執行されたものと評価する。

以上の理由から第55号議案に賛成である。

賛成 菊地 忠久

令和3年度は、「第六次白石市総合計画」および「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」がスタートした年度であったが、コロナ禍や自然災害対応に追われた二年でもあった。

いくつかが個別の施策に目を向ければ、国による地方創生臨時交付金を活用しながら、ワクチン接種事業や事業継続支援事業を実施するなど、さまざまな施策に取り組み、感染拡大防止や社会経済活動の回復を図ることができた。

令和4年3月の福島県沖地震では、令和元年の台風19号や令和3年2月の福島県沖地震の災害復旧が済んだ箇所をはじめ、新たに大きな被害を受けた。復旧にあたっては、本市財政への影響を低減できるよう、あらゆる支援策を活用し進めていきたい。

本市の最大かつ喫緊の市政課題である、公立刈田総合病院の経営改善は急務である。

令和5年4月から指定管理者制度を導入し、白石市立病院として運営することとなったが、市立病院化へのスムーズな移行と安定した病院経営への取り組みを強く要望するとともに、市民に対する丁寧な説明を求めたい。

令和3年度の歳入歳出全体を見ると、一般会計の実質単年度収支額は3年連続の黒字となり、経常収支比率など主要な財政分析指標は良好している。

また、公立刈田総合病院へのコロナ債(新型コロナウイルス感染症に伴う減収による資金不足に対する特別減収対策企業債)は、令和2年度および令

和3年度の合計で約20億円の起債額となっており、この起債がなければ、その86.7%である約17億3千万円を本市が負担しなければならず、資金が確保できなければ、公立刈田総合病院は間違いなく破綻していた。

また、令和3年度は、本来、一般財源で実施する事業も、新徳田は返済していかなければならない。

令和3年度も非常に厳しい財政状況の中、選択と集中によるメリはりの利いた各種施策が着実に実施されたと言える。コロナ禍により、感染症拡大防止と社会経済活動の両立を図らなければならないという、

少子高齢化と人口減少が加速していく中、今後、社会福祉費などの民生費は大幅に増加と行財政改革を推進することが見込まれ、多くの公費を求めらるものである。

以上の理由から第55号議案に賛成である。

また、公立刈田総合病院へのコロナ債(新型コロナウイルス感染症に伴う減収による資金不足に対する特別減収対策企業債)は、令和2年度および令

